

91) Cranio-cervical junction AVM の 1 手術治験例

大和田健司・中里 信和 (岩手県立胆沢病
院 脳神経外科)

中枢神経系に発生する AVM の中で, cranio-cervical junction に位置するものは稀である。

症例は38歳男性。突然の頭痛と嘔吐・目眩にて発症。入院時、意識清明、項部硬直を認めた。CT では TENT 上下に広がるくも膜下出血を認め、血管写の所見では延髄背面・右側面から上部頸髄に達する AVM に脳動脈瘤が合併していた。手術所見から AVM の本態は右 C₁ 根動脈を feeder とする intradural の動脈瘤を伴う動静脈瘻でありシャント血流が延髄から上部脊髄にかけて、red veins を発達させていたものと判明した。Feeder 及び drainer とともに動脈瘤を摘出したところ血流動態は正常化し、患者は神経脱落症状もなく元気に社会復帰した。

92) 傍延髄部動静脈奇形の 1 例

太田 守・藤田 隆史 (福島県立医科大)
鈴木 恭一・山野辺邦美 (学 脳神経外科)
後藤 健・児玉南海雄

最近我々は、椎骨動脈から nidus を欠き、直接静脈に短絡している傍延髄部動静脈奇形の一症例を経験したので報告した。症例は65才男性で、くも膜下出血にて発症。入院時意識レベルは30で、右顔面神経麻痺、右下位脳神経麻痺、右半身不全麻痺、右半身知覚障害が認められた。血管撮影では、右 C₁ のレベルで椎骨動脈から直接異常静脈が分岐している像が認められた。1985年12月2日右椎骨動脈が硬膜を貫いた部位で直接静脈が吻合しており、同部を充分焼灼し clip をかけ切断した。術中所見からは、椎骨動脈から nidus を介さず静脈に直接短絡した形式の A-V fistula であり、稀な形態と思われるので報告した。

93) Posterior fossa AVM 7 例の経験

西澤 義彦・斎木 巖
村上 寿治・今野 譲二 (岩手医科大)
高橋 明・阿部 秀一 (脳神経外科)
立木 光・土肥 守
金谷 春之

Posterior fossa AVM は脳外科手術の困難な疾患の一つである。最近の5年間に経験した7例の臨床像・治療法について若干の考察を加え報告する。年齢は9~72才、女2例・男5例で、aneurysm の合併が2例、多発 AVM を一例に認めた。発症は6例が出血発作、

1例が痙攣発作であった。部位別に hemisphere 3 例、flocculus 1 例、brain stem 1 例、IV ventricle 1 例である。治療は IP-PC aneurysm と brain-stem AVM の一例では neck clipping と AVM exploration, VA-AICA aneurysm と hemisphere AVM の一例は neck clipping と feeder ligation, 5例で excision AVM を行ない、residual AVM の一例で二期的 excision を行なった。退院時 ADL は excellent 5 例, good 1 例, poor 1 例であった。

94) 後下小脳動脈末梢部動脈瘤の一治験例

石橋 安彦・大原 宏夫 (大原綜合病院
脳神経外科)

症例は、47才、男性、昭和60年9月16日、突然にめまい、頭痛、嘔吐で発症し当科入院した。入院時、軽度意識障害、項部強直と両側注視性眼振を認めた。CT scan では、第4及び第3脳室内血腫と水頭症が認められた。脳血管撮影で右後下小脳動脈の vermillion branch に 4×6mm 大の嚢状動脈瘤を認めた。発症55日目に、両側後頭下開頭にて、脳動脈瘤のクリッピングを施行し、術後経過良好であった。椎骨脳底動脈系の脳動脈瘤の中でも、比較的稀な後下小脳動脈末梢部動脈瘤の治験例について報告し、文献的に考察した。

95) Distal pica AN の 2 症例

作田 善雄・椎名 巖造 (井井市立総合病
院 脳神経外科)

distal pica AN の頻度は、全頭蓋内動脈瘤の1%以下といわれ稀なものである。

我々は、54才と65才の女性の2症例を経験したが、臨床症状以外の共通所見として、CT 上第4脳室の HDA, Angio 上、AN 内への造影剤の pooling, そして、手術所見として動脈瘤の血栓化などの特徴的な所見が認められたので報告する。

なお、54才例には neck clipping, 65才例には aneurysmectomy (25×20×20mm の giant AN) を行い、いずれも良好な結果を得ている。

96) 脳底動脈瘤手術の問題点

佐藤 昌宏・佐藤 正憲 (福島県立医科大)
菊池 泰裕・松本 正人 (学 脳神経外科)
佐々木達也・児玉南海雄

過去3年間に14例の上位脳底動脈瘤を経験し、我々が主に行っている subtemporal approach の術中写真を含め、手術法の問題点について報告した。症例は男性4例、女性10例、年齢は38才~69才、脳底動脈末端部